

7代目の父と息子はタコツボ漁
東京湾に浮かぶ猿島は恵みの漁場で

米軍基地を北に見晴らす海沿いの漁港から、横須賀市東部漁協の組合員が毎朝出航する。

ある日、柴崎弥春さん親子と船でタコ漁に。現代版のタコツボは合成樹脂製の四角い箱。餌のカニを入れて数日間海底に沈め、タコが餌を食うとフタが閉まる仕組みだ。港を出てじきに漁開始。柴崎さんは「沖の猿島から岸まで続く長細い根の上に仕掛けてあります」。根とは岩礁のことで海藻や生き物が多いからタコも餌を求めて棲み着いているのだ。

父がロープに結びつけたタコツボを次々に上げ、息子の好郁さんがフタを開ける。タコだ！「逃げ足早いですよ。床に貼り付いたら吸盤が強くて離れないし」と好郁さんは笑いながら、タコツボの口に網袋を広げる。獲物は網袋にニュルリと落ち、甲板の水槽に収められる。カニも自分たちで海岸に捕りに行くと聞いて手間のかかる仕事だと思った。

水揚げ場に戻ると大水槽には仲間が獲ったタコの網袋がびっしり。多い日には500kgも獲れるそうだ。この辺は東京湾も入口に近くて潮の流れが良い上に、岩礁は餌も豊富。身が締まって旨いタコのほかに、様々な漁具を使いこなして豊かな旬の魚を追い続ける。この浜の漁師たちは実に器用なのだ。

取材・文=眞鍋じゅんこ (ノンフィクションライター・お魚かたりべ)
撮影=鶴田康則 (写真家)



横須賀東部漁港の旬

- 春—マコガレイ・カマス・ワカメ・アカモク
- 夏—ヒラメ・マコガレイ・スズキ・アイナメ
- 秋—タチウオ・カマス・タコ
- 冬—ワカメ・コンブ・アカモク

横須賀市東部漁港

軍港都市横須賀の南側、平成元年竣工の埋め立て地に造られた漁港で新安浦港ともいう。以前は東側の国道16号線近くだった。港内にある横須賀東部漁協横須賀支所の組合員は75名、約40軒。この辺では盛んな漁協だ。古くは共同の巻き網漁船で、カツオ漁の餌であるカタクチイワシを捕った時代もあるが解散。ここ数十年は個人単位で得意な魚が生業に。彼らの多くは旬に合わせて刺網漁、タコツボ漁、巻き網漁、底引き網漁など漁具を変えて漁をする。冬～春はワカメやコンブ養殖、アカモク採取といった海藻の加工までする家も多い。釣船も数軒。猿島の自然の恩恵を受ける地元漁師は「神様が宿る島」という。



横須賀市東部漁業協同組合
横須賀支所長の柴崎弥春さん。



横須賀市東部漁業協同組合横須賀支所
〒238-0013 横須賀市平成町 3-4
☎046-822-1052



<企画・発行>横浜魚市場卸協同組合
連絡先 TEL045-459-3400

横浜丸魚(株) 横浜魚類(株)